

サンプル版

スケベ短編 04

自撮りするからラブホ行こう！

作者：金目

目次

登場人物紹介

第一話 晴臣のエロ妄想ベランダオナニー

(サンプル掲載はここまでとなります)

(以下、製品版収録)

第二話 オナニー敢行学園長室

第三話 デイルド入れたらラブホデート！？

【お願い】

この小説は金目によるフィクションであり、現実存在する個人・団体などとは無関係です。

無断転載・私的利用の範囲を超えた共有など、著作権法に触れる行為は控えていただきますようお願いいたします。

この作品は犯罪行為を推奨するものではありません。フィクションとして、お楽しみください。

作中の性行為描写はすべてファンタジーとなります。現実のセックスへの参考になさらないようお願いいたします。

登場人物

夢路 晴臣 (ゆめじ はるおみ)

とある学園にて、勤務4年目の体育教師。男性。元大学ラグビー選手。童貞。

平常時 9.6cm、勃起時 16.8cm のずる剥け、大学ラグビー部歴代最高峰のデカチン。

外見は悪くないのだが、妄想が先走る残念な性格。

佐藤アイ (さとう あい)

晴臣が出会い系チャットアプリで3回目にマッチングされた相手。

第一話 晴臣のエロ妄想ベランダオナニー

夢路晴臣は、自宅マンションのパソコンの前に全裸で座っていた。

エロ動画でヌクためではない。

出会い系チャットで知り合った女性とチャットをするためである。

晴臣が利用している出会い系チャットにはライブチャット機能があり、利用する二者の間で合意が得られた場合に利用することができる。

晴臣は、今回こそライブチャットで遠距離エッチをするぞ、という意気込みにより、既に全裸になっているのだ。

客観的に見れば、必死過ぎ・夢見すぎでしかない。

晴臣は、外見はそれほど悪くない。

短く刈り上げた頭髮と無精髭、いかつい顔立ちは、古臭さがあるものの男らしい顔立ちであり、ラグビーによって厚みを増してきた筋肉は力強さに溢れている。

体毛も、男らしさと汚らしさの境界上のギリギリとはいえ、男らしさの側に留まる程度である。

そして、股座に鎮座するデカチンはずる剥けであり、亀頭は旺盛な性欲を手コキで発散させ続けた結果、雁首周辺が擦過で色素が沈着してやや黒ずんでいる。

とはいえ、チンカスやオナティッシュなどは見当たらないため、清潔を保ったデカチンであろう。

大きさは、大学ラグビー部内でチン比べをして現役のみならず、OBの記録も破った歴代最高のデカチンである。

男女交際とセックスがイコールで結ばれている性欲旺盛な女性相手ならば、それなりに需要がありそうな身体とチンポではあるのだが、晴臣は童貞である。

出会い系チャットに嵌まるほどなので、男女交際とセックスに奥手だったわけではない。

ただ、高校・大学と環境が悪かったのだ。

高校時代は全寮制の男子校に属していたため、女性と交際をする時間と場所の余地がなかった。

大学では時間と場所の問題は解消されたのだが、晴臣が属していたラグビー部が最悪であった。

「抜け駆け禁止」という訳の分からない訓戒が受け継がれているため、ラグビー部の部員たちは互いの恋愛を監視し、足を引っ張り合うことが常態化していた。

当然、女性との出会いを求めようとしても他の部員に邪魔をされてしまい、晴臣は好みの女性にデートを申し込むことすらできなかったのだ。

そうして、童貞のままとある学園の体育教師として就職をした晴臣は、学生たちを口説くわけにもいかず、同僚の女性もおばさんしかいないと、交際以前に出会いの切っ掛けすらない。

女性との交際やセックスへの願望を膨らませ続け、実践に飢えている晴臣は、とうとう出会い系チャットに手を出してしまった、というわけだ。

晴臣は、約束の時間となり、佐藤アイとのチャットを期待している。

佐藤アイは、チャットアプリのマッチングモードで3回目にマッチングしてもらった相

手だ。

最初の相手や2番目の相手のように、出会い系チャットを使っておきながら「がつつき過ぎて気持ち悪い」だの、「そんなに必死になるなら風俗行ったら？」と辛辣な捨て台詞を吐くことなく、晴臣とのチャットを継続してくれる相手だ。

プライベートメールでは、足首に脱ぎたてのショーツを引っかけた脱衣画像に、「オナニーのオカズにしてね」というメッセージを添えて送ってくれた。

ピンク色のショーツと、すらっとした足をオカズにしたオナニーはとても気持ちよかった。

晴臣は、佐藤アイと相性が良いと確信している。

だから、今回はもっと過激な画像をくれるかもしれないし、ボイスチャットモードでチャットセックスになるかもしれない。

そして、ゆくゆくは、ラブホデートでセックスできるだろう。

晴臣の股間では、ラグビー部歴代最高峰のデカチンがギンギンに勃起している。

オナニーをしまくった擦過による色素沈着で雁首回りがやや黒ずんでいるデカチンは、性欲の強さを示すかのようにブルンブルンと震えている。

佐藤アイがオンラインになったとの通知が出た。

晴臣は、期待を込めながらチャットアプリの画面を見る。

「こんにちは、晴臣さん」

佐藤アイのメッセージに、晴臣は即座に返信をする。

「こんばんは、佐藤アイさん」

「私のショーツでオナニーしてくれましたか？」

佐藤アイからのメッセージに、晴臣はフル勃起デカチンをギンギンに揺らした。

オナニーのオカズとして送られた画像であるものの、佐藤アイからこのように問われれば、晴臣は誘われている、と確信する。

「ああ、とても気持ちよかった。ありがとう」

晴臣はギンギンに震えるデカチンがパソコンデスクの縁にぶつかるのを感じながら、返信をした。

「そっかー、嬉しい。

ふふふ、エッチな気分になっちゃった。

私たち、相性がいいよね」

佐藤アイに「相性がいい」と告げられ、晴臣は胸がときめいた。

佐藤アイは、これまでのチャットアプリの相手と違い、晴臣に対して積極的にアプローチを重ねてくれるし、晴臣に対しても「必死過ぎ」と嫌悪を示すこともない。

「ああ、俺たちは相性がいいと思う。

それで、今日なんだけど——」

ボイスチャットでチャットセックスをしないか、と晴臣が誘おうとする前に、佐藤アイからのメッセージが表示された。

「あのね、晴臣さんって、おチンポが大きいんだよね。

晴臣さんの大きなおチンポをオカズに私もオナニーをしたいの」

チャットセックスの誘いの先を制した佐藤アイからのおねだりに、晴臣はスケベでかわ

いいな、と思った。

本音を言えば、晴臣はチャットセックスに持ち込みたかった。

だが、佐藤アイには先だってショーツを足に引っ掛けた画像を贈られている。

だから、佐藤アイからの画像のお礼に晴臣がデカチン画像を贈るのは返礼として当然のことだろう。

「分かったよ。今撮影をする」

晴臣は、佐藤アイにそう返信をすると、椅子を少し下げて、パソコンデスクから距離を取った。

そして、スマートフォンを撮影モードにし、己のフル勃起デカチンを見下ろす。

勃起角度が高い晴臣のデカチンを見下ろすと、まず、大きな龟头と鈴口が目に入る。

晴臣はそのままスマートフォンのシャッターを押し、撮影をした。

そして、スマートフォンとパソコンをケーブルでつなぎ、そのまま佐藤アイに送信をする。

晴臣は、佐藤アイからの返信を待つ。

自慢のデカチン画像を送信したのだ。

佐藤アイは絶対に感激するだろう。

晴臣のデカチンは、大学ラグビー部において、現役部員のみならず、OBたちの記録すら破った最高峰のデカチンなのだから、佐藤アイは絶対に興奮してくれる。

どんなに喜ぶだろうか。

どんな風に晴臣のデカチンを褒めてくれるだろうか？

晴臣は、期待でフル勃起デカチンをブルンブルンさせながら、佐藤アイの返信を待つ。

「ごめんなさい。

上から見下ろされると大きさが分からないの」

佐藤アイからの返信を見て、晴臣は「え？」と呟いた。

晴臣にとって、己のデカチンが大学ラグビー部において歴代最高峰のデカチンであることは当たり前のことであり、己がデカチンではない、という疑念を抱いたことすらない。

だから、佐藤アイに「大きさが分からない」と言われても、「どうして？」と思ってしまふのだ。

客観的に判断をするのならば、佐藤アイの主張が正しい。

台所でよく用いられるアルミホイルの筒を例に想像をしてみると分かりやすいだろう。

筒を横から見れば長さが分かりやすい。

逆に、筒を上から覗き込むと、視界における占有度が下がるため、奥行きがあると判断はできても、長さを目測で把握するのは難しくなる。

目視による判断は、視界における占有度が大きな比重を占めているため、長さや大きさを示すには、占有度を多めに確保した方が分かりやすいのだ。

とはいえ、己のデカチンに絶対の自信を持っている晴臣には、こうした理屈が備わっていない。

だから、佐藤アイの反応の根拠が、晴臣には分からないのだ。

「俺のデカチン、大学ラグビー部でOBたちを押さえた歴代最高峰のデカチンなんだ」

晴臣は、己の常識を語ることで、佐藤アイを納得させようとする。

「晴臣さんが嘘をついているなんて思っていないよ。」

えっとね、もっと分かりやすい画像が欲しいの。

横から見たのとか、チューハイの缶と比べたやつとか」

佐藤アイからのメッセージを読んだ晴臣は、もう一度、己のフル勃起デカチンを見下ろす。

己のデカチンがラグビー部歴代最高峰であると確信をしている晴臣にとって、上から見下ろしても己のデカチンは立派なものだ。

晴臣は目を閉じ、頭の中で佐藤アイの提案を想像してみた。

横から撮影をすれば、デカチンの根本から先っぽまで見える。

ああ、そういうことか。

晴臣はようやく、佐藤アイの言葉の意味が分かった。

上から覗き込んだのでは、デカチンの先っぽから根本までの長さが分かりにくい。

一方、佐藤アイの提案に従い、横向きに撮影をすれば、デカチンの先っぽから根本の長さまで分かりやすいし、ベッドスタミナに自信のある金玉も見せつけることができる。

ビール瓶についても、晴臣には当てがある。

晴臣は缶チューハイを常飲しているため、空き缶が台所に溜まっているのだ。

「分かったよ。

今、用意をする」

晴臣は立ち上がり、台所に向かった。

そして、床に置いているゴミ袋から空き缶を一本、拾いあげた。

そして、空き缶を己のフル勃起デカチンの横に添えると、スマートフォンを腰のあたりに構え、横から撮影をした。

晴臣は、スマートフォンを目の前に掲げ、撮影された画像を確認する。

晴臣のフル勃起デカチンは、350mmのチューハイの缶から亀頭が飛び出している。

太さこそ、チューハイの缶には敵わないが、バキバキに勃起した硬さや長さは、ラグビー部歴代最高峰のデカチンだけあり、中々立派なものだ、と晴臣は自画自賛する。

そして、晴臣はパソコンデスクに戻り、スマートフォンとパソコンをケーブルでつなぎ、佐藤アイに画像を送信した。

佐藤アイは晴臣の自慢のデカチンを喜ぶだろう。

何せ、晴臣のデカチンはラグビー部歴代最高峰のデカチンなのだ。

ラグビー部の同輩だけではなく、OBたちも嫉妬した自慢のデカチンだ。

晴臣のデカチンを見てオナニーをしたいと望む佐藤アイにとって、絶品であることは間違いない。

晴臣は佐藤アイから喜びと感謝を向けられると確信をしながら佐藤アイの返信を待つ。

しばらくして、佐藤アイからの返信が表示された。

「思ったよりも、凄なおチンポで驚いちゃった。

晴臣さんのおチンポ、とってもエッチだから、私、ムラムラしてきちゃった」

佐藤アイからの返信を読んだ晴臣はフル勃起デカチンを大きく震わせ、ごくりと唾を飲み込んだ。

佐藤アイは、晴臣と出会うための生まれたかのようにスケベな人だ、と晴臣は確信する。

晴臣のデカチンにムラムラしてきたのなら、ボイスチャットでの遠距離セックス、いや、ビデオチャットでの遠距離セックスになるかもしれない。

まだ、通常のチャットと画像のやり取りしかしていないため、晴臣は佐藤アイの顔も声も知らない。

胸の大きさを知らなければ、尻に肉付き具合も分からない。

身長は高いのか、晴臣の胸に収まるような小柄な女性なのかも、分からない。

だが、晴臣は、佐藤アイは晴臣好みのスケベな女性であると確信している。

童顔で、小柄な体格に豊満な乳と尻をした抱き心地のよい女性であり、晴臣の愛撫やピストンに対し、過剰なほどに濡れていやらしく喘ぐ様子がかわいらしい女性に違いない、と先走った妄想すら抱いている。

「ごめんなさい、我慢できないからお風呂でオナニーしてきます。

私、エッチなことは時間をかけてじっくり楽しみたいから、また明日話をしましょう」

佐藤アイからの返信が表示されると同時に、佐藤アイがオフラインになった。

「マイペースだな……」

佐藤アイとの関係の進展を期待していた晴臣はぼやいた。

そんなにスケベなのか、という感心が半分と、オナニーよりも俺とスケベなことをすればいいのに、という未練が半分だ。

小柄な体格に豊満な乳と尻をした佐藤アイが風呂場でマ○コを弄り、晴臣のデカチンを思いながらオナニーをするのか、と思うと、晴臣もムラムラしてくる。

晴臣のフル勃起デカチンもビグンビグンと震えて、パソコンデスクの縁を何度も叩いている。

「……俺もするか」

晴臣は、パソコンデスクから離れ、ベランダに向かった。

晴臣の住む部屋は、29 階建てのマンションの 29 階にある。

晴臣自身の収入で購入した部屋ではなく、お金持ちで美酒美食に明け暮れた結果、早逝してしまった叔父から相続した部屋である。

周辺にはこのマンションよりも高い建物はないため、ベランダから見下ろせる風景は晴臣の自尊心を満足させるものである。

晴臣はそのまま、全裸、かつ、デカチンをフル勃起させた姿でベランダに出る。

夜風の気持ちよさに晴臣は笑みを浮かべる。

ベランダからは、駅前の夜景を見下ろせる。

この部屋は、周辺で最も高い部屋であるため、誰も全裸の晴臣を覗くことはできない。

いずれ、佐藤アイとの関係が結婚を考慮できる段階まで進んだ暁には、佐藤アイをこの部屋に招き、ベランダで青姦しよう、と晴臣は妄想する。

晴臣は、佐藤アイと将来行う夜景青姦の妄想をしながら、デカチンを握りしめる。

佐藤アイは、晴臣に負けず劣らずのスケベな人であるに違いない。

ならば、世間を見下ろしながらの夜景セックスに、佐藤アイも興奮するだろう。

高層階のベランダであるため、小柄な佐藤アイが捕まるには高すぎる。

だから、佐藤アイが豊満な尻を突き出せるような置物を買った方がよいだろう。

置物に両手をついて晴臣に差し出される佐藤アイの尻は、高級な桃よりも美しく、甘い果実に違いない。

晴臣は童貞であり、無修正エロ動画を見たこともないので、マ○コの形状は分からない。
けれど晴臣は、佐藤アイのマ○コはきっと、いやらしく香しいものに違いない、と確信している。

尻を突き出し、「おっきいの、ちょうだい」と強請る佐藤アイの声はとてもしやらしく、愛らしいに違いない。

晴臣が腰を掴み、いきり立ったデカチンを宛がったら、佐藤アイはこう言うに違いない。
「こんなにおっきいの、はじめてなの。

だから、やさしくしてね」

佐藤アイのようにスケベな女性であっても、晴臣のようなデカチンとのセックスは初めてに決まっている。

晴臣は、大学ラグビー部の同輩のみならず、OBたちよりも雄々しく、男らしいデカチンなのだから。

晴臣がデカチンを挿入したら、佐藤アイは「おっきすぎい」と淫らに喘ぐだろう。

晴臣のデカチンは大学ラグビー部史上最高峰のデカチンであるため、佐藤アイが易々と受け入れられるわけがない。

晴臣は、佐藤アイが晴臣のデカチンに馴染むように、じっくりねっとりとデカチンを抜き差ししてやるのだ。

「だめえ……おっきいい」と喘ぐ佐藤アイに、晴臣は雄々しい男らしく、リードをしてやる。

男性経験豊富な佐藤アイが、晴臣以外の男とのセックスなど望まなくなるように、晴臣のデカチンの味をたっぷりと仕込んでやるのだ。

晴臣のデカチンに馴染んでしまえば、佐藤アイは絶対に晴臣のデカチンの虜だ。

「抜かないで！ もっと突いて！

私がおかしくなるまでガンガン突いて！」

と、佐藤アイは晴臣を情熱的に求める。

晴臣は、淫乱な佐藤アイを満足させられる益荒男だ。

いや、逆だ。

佐藤アイは、晴臣を満足させるために必死に奉仕をするようになる。

晴臣のデカチンには、それだけの力と価値があるのだから！

佐藤アイが尻を突き出す姿勢でのセックスに疲れたら、晴臣の雄々しさと力強さを心身に刻み込むために、厭棄でセックスを続けるのもよいだろう。

小柄な佐藤アイを抱えることは、ラグビー部で鍛えてきた晴臣には容易いことだ。

佐藤アイは、晴臣のペースでのセックスに必死になり、晴臣に縋りつき、晴臣なしのセックスなどありえない、と確信するだろう。

「イっくうううううううううううう！」

晴臣は野太い声で喘いだ。

どっぴゅるるるるるるるるるる！

晴臣の喘ぎ声と同時に、晴臣のフル勃起デカチンからクラッカーの噴射物のように大量

のザーメンがぶっ放された。

晴臣が勢いよくぶっ放したザーメンは、高層階のため高くつくられているベランダの柵にべちゃべちゃと種づけされていく。

射精を終えた晴臣は、部屋の明かりに照らされるベランダの柵にたつぷりと付着したザーメンを見る。

佐藤アイを染め上げるのにふさわしいザーメンの量だ、と晴臣は確信する。

佐藤アイは、子宮内にぶっ放されたザーメンの熱さに驚き、晴臣の雄々しさに満足するだろう。

童貞である晴臣は、ザーメンの熱さを子宮で感じる事など不可能であるということも知らない。

エロフィクションと現実のエロを混同するような童貞臭さが、出会い系チャットで敬遠された原因であることも気がついていない。

晴臣は、やや古臭いものの性欲が強そうな男らしい顔立ちをしている。

ラグビーで鍛え上げられた肉体と、肉体を彩る体毛も、男女交際とセックスがイコールで結びつく女性の一部に需要があるだろう。

晴臣が自慢に思うデカチンも、男性器特有の卑猥さがあれども、大きさと形状に難点はなく、セックスにおいて役に立ちそうだ。

射精を終え、満足そうに笑っている晴臣には、卑猥さといやらしさ、そしてセックスアピールの3点が過不足なく満たされている。

不潔にならない程度の体毛も、分厚い筋肉も、自慢のデカチンも、セックスの対象としての評価をするのならば、高評価を得やすいだろう。

だが、晴臣の精神性が、とても残念である。

出会い系チャットで対話を重ねているだけの相手に、ここまで生々しい妄想ができてしまう点もそうだが、出会い系チャットで交際まで発展すると確信できる不用心さも残念だ。

佐藤アイは、晴臣を煽っているだけで、交際する気がないのかもしれない。

それ以前に、佐藤アイは、ノンケのエロ画像収拾を目的とするネカマかもしれない。

晴臣は、そんなことも考えずに出会い系チャットで対話をしているだけの佐藤アイに懸想しているのだ。

奥付

サンプル版『スケベ短編 04 自撮りするからラブホ行こう！』

初出：2025 年 09 月 19 日

作者：金目

金目の同人活動一覧

【pixiv】

<https://www.pixiv.net/member.php?id=22137005>

【DLsite がるまに】

https://www.dlsite.com/bl/circle/profile/=maker_id/RG01002299.html

【ゲイ小説進捗状況呟きアカウント】

https://twitter.com/chigaya_deep